

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

グリーンカルテット那賀農村再生計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

島根県

那賀郡金城町

那賀郡旭町

那賀郡弥栄村

那賀郡三隅町

3 地域再生計画の区域

島根県那賀郡金城町、旭町、弥栄村及び三隅町の全域

4 地域再生計画の目標

本地域は、島根県西部、石見地方のほぼ中央に位置し、北は浜田市及び日本海、南は中国山地で広島県と接した人口18,200人、面積527km²の地域である。この地域は、通学・通勤・通院・消費などの日常生活において浜田市を核とした圏域を形成しているだけでなく、歴史・文化的にも古くから那賀郡としての一体性を有しており、介護保険、ゴミ処理、し尿処理及び消防などの事務に一体的に取り組むなど強い結びつきがある。

農産物は、水稻をはじめ、野菜類、果樹及び花き、さらには畜産物と多種品目にわたっており、特に旭町の赤梨「旭豊（きょくほう）」、三隅町の西条柿の生産が盛んである。

主な交流施設としては、乗馬体験の出来るかなぎウエスタンライディングパーク、金城カントリークラブ、リフレパークきんたの里、美又温泉、旭温泉、旭テングストンスキー場、ふるさと体験村、石正美術館等がある。那賀郡4町村においては、これら各種交流施設と風光明媚な自然など豊富な地域資源に石見神楽や和紙づくりに代表される伝統文化を活かし、ふるさと体験村の春まつり等のイベントや棚田百選に選ばれたおよそ四千枚に及ぶ「室谷の棚田」の棚田のオーナー制度をはじめとした各種交流事業による地域活性化策を進めており、観光客入り込み数は年間60万人を超え農林産品の販売・地域雇用などにも大きく寄与している。

また、那賀郡4町村は浜田市を加えて、5市町村による広域合併を本年10月に予定しており、市町村合併後も旧市町村単位で自治区（浜田那賀方式）を設け、地域住民の声を反映した地域の個性を活かしたきめ細やかなまちづくりを推進することとしている。

しかしながら、地域内の道路網は、南北には浜田市と広島市を結ぶ浜田自動車道や国道186号は整備されているが、東西を結ぶ幹線道路は海岸部の国道9号しかなく、「人」と「もの」の流れに大きな支障をきたしている。その結果、高速交通網（浜田自動車道、萩・石見空港）へのアクセスや行政・観光・交流施設などの中核施設と周辺集落との往来や農林産物の集出荷に支障をきたしている。

このため、那賀郡4町村は郡内中山間地域を走る幹線道路を整備することにより、町村間を約20分で結ぶ「那賀郡内町村間20分間構想」の実現を目指すこととしている。

具体的には、郡内の幹線道路として広域農道を整備することにより、浜田自動車道、国道、県道、町村道、農道、林道と交通ネットワークを形成し町村間の時間距離を縮め、行政間や各種団

体の連携、公共施設や交流施設等の相互利用等を促進することにより住民の利便性の向上を図るとともに、インターチェンジや空港へのアクセス時間を短縮し、周辺都市や大都市圏と短時間での往来を可能にする。

さらに、郡内各町村の中心部と周辺集落を結ぶ町村道、農道及び林道などの整備を進め、役場や病院、消防署等への往来時間を20分以内に短縮し、民生の安定を図る。

これらの取り組みを通じて、広島から域内への時間距離を1時間半以内にするなど、都市からの交通の利便性を大幅に向上させるほか、地域内の移動時間の短縮により、地域内の交流施設等を有機的に結ぶ観光ルートを確立するなど、「人」と「もの」の流れを円滑にし、「しまね田舎ツーリズム」等も活用して都市部からの観光客等の交流人口を拡大する。更には、物資輸送の利便性向上や伝統的な食文化及び地域の豊かな農林特産物等を観光客に提供するなどにより、農林特産物の生産・販売量の増大を目指す。

(目標1) 高速交通網へのアクセス時間の短縮

弥栄村役場	～	旭IC	(40分	30分)
金城町役場	～	旭IC	(20分	15分)
ふるさと体験村(弥栄村)	～	旭IC	(47分	37分)
旭町役場	～	萩・石見空港	(110分	65分)

(目標2) 町村間の往来時間の短縮

弥栄村役場	～	旭町役場	(40分	25分)
金城町役場	～	旭町役場	(20分	15分)

(目標3) 中核施設と周辺集落との往来時間の短縮

山根原集落	～	金城町役場	(16分	12分)
都川集落	～	旭町役場	(20分	10分)
大辻集落	～	三隅町役場	(20分	10分)
石浦集落	～	三隅町役場	(22分	20分)
大谷集落	～	旭IC	(24分	12分)

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

金城町と旭町を結ぶ「広域農道 那賀西部3期、4期」を集中的に整備することにより、既設の幹線道路とあわせて高規格幹線道路「浜田自動車道」旭インターチェンジへのアクセス時間の短縮を図り、更には、町村間の往来時間を短縮し、公共施設の相互利用等を図る。加えて、三隅町から益田市へ至る「広域農道 石見西部3期」を整備することにより「萩・石見空港」へのアクセス時間を短縮し、大都市圏との短時間での往来を可能にする。

また、「町道 深笹線、大谷線、宇栗線(金城町)、高杉後谷線、柏尾谷線(旭町)」及び「林道 水越支線(旭町)、石浦野坂線(三隅町)」の整備をすることにより、行政・観光・交流施設などと周辺集落との往来時間の短縮を図り、「人」と「もの」の流れを円滑にする。

手続き状況

・広域農道(土地改良法の手続き)

那賀西部3期、4期	:	平成13年	4月	9日	着手決定(那賀西部広域農道)
石見西部3期	:	平成14年	3月	27日	着手決定(石見西部広域農道)

- ・町 道（町道認定）
 - 宇栗線（金城町） : 平成 4 年 3 月 1 8 日（供用開始）
 - 深笹線（金城町） : 平成 4 年 3 月 1 8 日（供用開始）
 - 大谷線（金城町） : 平成 5 年 3 月 2 5 日（供用開始）
 - 高杉後谷線（旭町） : 昭和 5 6 年 3 月 1 6 日
 - 柏尾谷線（旭町） : 昭和 5 6 年 3 月 1 6 日
- ・林 道（地域森林計画記載）
 - 水越支線（旭町） : 平成 1 7 年 4 月 1 日
 - 石浦野坂線（三隅町） : 平成 1 7 年 4 月 1 日

5 - 2 法第 4 章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金を活用する事業

- ・事業主体
 - 島根県、金城町、旭町、弥栄村、三隅町
- ・施設の種類
 - 広域農道、町道、林道
- ・事業区域
 - 金城町、旭町、弥栄村、三隅町
- ・事業期間
 - 広域農道（平成 1 7 年度 ~ 平成 2 1 年度）
 - 町 道（平成 1 7 年度 ~ 平成 2 1 年度）
 - 林 道（平成 1 7 年度 ~ 平成 1 8 年度）
- ・事業費
 - 総事業費 8 9 億 4 千 4 百 7 5 万円
 - ・広域農道 7 1 億 4 千万円 （うち交付金 3 5 億 7 千万円）
 - ・町 道 1 7 億 2 千万円 （うち交付金 8 億 6 千万円）
 - ・林 道 8 千 4 百 7 5 万円（うち交付金 2 千 8 百 2 5 万円）
- ・整備量
 - 広域農道 9 . 2 km、町道 5 . 5 km、林道 3 . 3 km

5 - 3 その他の事業

- ・金城町、旭町、三隅町は、利便性向上のため、平成 1 7 年度から平成 2 1 年度にかけて、町道 2 . 9 km を整備する計画である。
- ・島根県、金城町は、農産物集出荷の時間短縮等のため、平成 1 7 年度から平成 2 0 年度にかけて農道 2 . 5 km を整備する計画である。
- ・旭町は、周辺都市部へのアクセスの利便性向上のため、浜田自動車道旭インター駐車場を平成 1 7 年度において拡幅整備し高速バスの利用促進を図る計画である。
- ・旭町、金城町及び弥栄村では、健康づくりやリフレッシュのため、2 日間にわたって 3 町村の自然や地域の歴史、温泉などをゆっくり楽しむ「きんさい石見路ツデーウォーク」を平成 1 3 年度から秋に実施している。
- ・伝統文化を活かした地域間交流を促進するため、石見神楽の定期公演を毎年 9 月から 1 2 月に

かけて美又温泉や旭温泉で実施するとともに、毎年秋には弥栄産業まつり、むろだに棚田まつり、旭ふる里まつり等の各種イベントでも神楽の公演を実施している。更に「石見神楽王国」と銘うった石見神楽情報パンフレットを地域外の人にもPRするため発行している。

- ・弥栄村のふるさと体験村では毎年春まつりを行い都市部からも集客し、村民との交流促進を図っている。
- ・弥栄村は、定住対策として、就農希望の定年退職者や若年層に農業の体験をしてもらうための「第2のふるさと発見コース」や、都会の人に田舎での暮らしを体験してもらう「しまね暮し体験事業」を実施している。
- ・弥栄村は国土交通省と連携して、地方での生活経験のない若者に生活の場を提供し、地方の良さを知ってもらうとともに、フレッシュな観点を地域の活性化に役立てるため、「地域づくりインターン事業」を平成17年度から実施する計画である。

6 計画期間

認定の日から平成22年3月末まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

4に示す地域再生計画の目標については、計画終了後に必要な調査を実施し、状況を把握・公開するとともに、関係行政機関と地元代表者等と共同で達成状況の評価、改善すべき事項の検討等を行う事とする。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当無し